

“歌舞伎幕”について

みなさん、歌舞伎幕と言えば、「柿・黒・緑」の3本縞の引き幕を連想する人も多いと思いますが、実は劇場によって異なる配色、並びになっているのはご存知でしたか?今回はその歌舞伎幕について、ちょっとご紹介致します。

まず初めに“歌舞伎”とは・・・

歌舞伎の由来は「傾(かぶ)く」という言葉が元になっています。これはかぶ(頭)＝頭をかしげるという行動が、「常識を外れた」や「異様な風体」に見えることによります。そこから転じて奇抜な身なりや行動をする者を「かぶき者」と言うようになりました。歌舞伎は約400年の歴史を持ち、歌(音楽)・舞(踊り)・伎(芝居)の三要素を備えた、総合的な芸術として、現在に至るまで受け継がれています。



歌舞伎座 (森田座に起源)

歌舞伎幕について

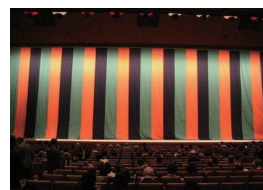
歌舞伎では舞台と客席を仕切る幕として、定式幕という引き幕(左右に開く幕)が用いられます。そもそもこの幕は初代猿岩(中村)勘三郎が幕府から拝領した帆布を模して作ったのが始まりとされます。歌舞伎のシンボルカラーともいえる三色は、実は劇場ごとにその並び順や配色が異なります。

東京東銀座の歌舞伎座は上手(向かって右)から、「柿・黒・萌黄(緑)」

東京半蔵門の国立劇場は、「柿・萌黄(緑)・黒」

そして十八代目中村勘三郎が復活させた平成中村座では萌黄(緑)を使わず、「柿・白・黒」

これらの違いはそれぞれが江戸時代に幕府から興行が許可された劇場である「江戸三座」＝森田座・市村座・中村座のものを取り入れたためとされています。ちなみにお菓子の歌舞伎揚げのパッケージや歌舞伎座の真下にある地下鉄東銀座駅構内にデザインされた三色は、「柿・萌黄・黒」と国立劇場と同じ並び順です。江戸の人も現代人も意外と無頓着なのかもしれません。



国立劇場 (市村座に起源)



平成中村座 (中村座に起源)

隈取(くまどり)

顔にカラフルな線を描く「隈取」は、歌舞伎の象徴です。血管や筋肉のデフォルメである隈取のポイントは色です。例えば赤い隈は若さや正義、力、激しい怒りなどを表し、青い隈は、高貴な身分でありながら、国の乗取りなどを企む悪や怨霊などを表します。また茶色の隈は人間に化けた妖怪や鬼などを表すというように、色で役の性格が分かります。他にも鯰(なまず)のような形のひげや、朝顔の葉などを描いた、ユーモアたっぷりの戯隈(ざれぐま)などがあります。



ちょっと豆知識・・・歌舞伎に由来することば

二枚目(にまいめ)、三枚目(さんまいめ)

一座を構成する配役の番付の上で、思慮分別をわきまえた貫禄のある役を務める立役の看板役者を「一枚目」、美男で人気が高い若衆役を務める役者を「二枚目」、面白おかしい役を務める道外方を「三枚目」に掲げていたことが語源です。

千両役者(せんりょうやくしゃ)

名優と呼ばれる歌舞伎役者の収入は1000両を超えたことから、転じて素晴らしく活躍した人の意味として使われます。

十八番(おはこ・じゅうはちばん)

市川家が得意演目の歌舞伎十八番の台本を桐の箱に入れて保管したことが語源となっています。

幕切れ(まくぎれ)・大詰(おおづめ)

それぞれの場(幕)の終わりに引き幕が閉まることを幕切れ、江戸歌舞伎の一番目の最後の幕を大詰と言いました。現代でも「あっけない幕切れとなった」や「レースも大詰を迎えた」のように使用されます。



隈取(くまどり)

歌舞伎は世界に誇る、日本の伝統芸能です。なんとなく遠い世界のものと敬遠される方も多かもしれませんが、みなさんも一度奥深い歌舞伎の世界を覗いて見ては如何でしょうか。ちなみに「半沢直樹」の怪演で知られる、俳優の香川照之(本名)さん。もう一つの顔は歌舞伎役者「九代目市川中車(いちかわちゅうしゃ)」です。ご存知でしたか?